日本共産党　和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1351
'21.8.3

IR・カジノの住民投票条例制定署名・活動学習会

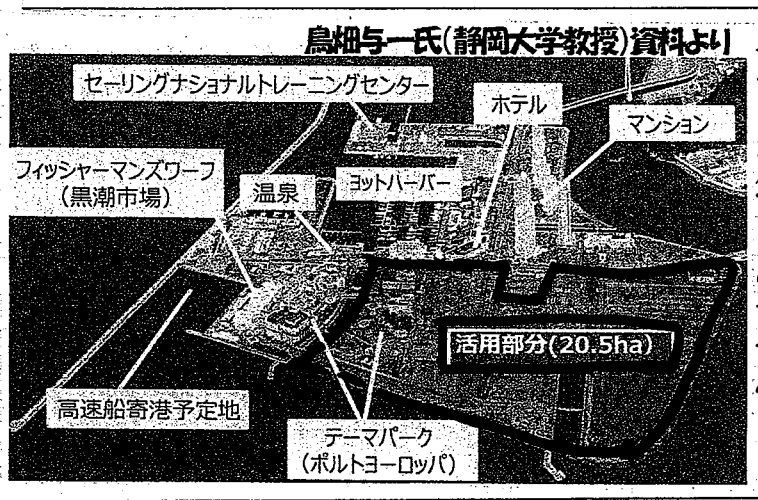
カジノ誘致の是非を問う和歌山市民の会の「住民投票条例制定へ署名・活動学習説明会」が7月10日に南コミセンで、31日に宮前地区会館で開かれ、わかりやすい学習資料が配布されました。

反社会勢力とのつながり

和歌山県はサンシティ撤退の理由を、新型コロナ感染拡大などと説明しましたがその真相は資金洗浄疑惑であり、反社会勢力との関連があらわになったことでした。当初県は、サンシティとクレアベストの2社を資格審査しこのサンシティを有力候補にしていました。カジノ業者への調査の限界、脇の甘さが示されました。

巨大施設型カジノは衰退期

長時間密集状態でギャンブル漬けにするビジネスモデルは衰退期です（オンラインカジノ・スポーツ賭博への転換が加速している）。コロナ禍でインバウンド（訪日外国人）は激減しています。カジノ営業を行うマカオでは、中国、香港、台湾以外の外国観光客の入国禁止し前年比8割減の訪問数でカジノ収益も第4半世期で7割減です。カジノに固執した地域経済はもはや破綻しています。仁坂知事はIR・カジノ誘致について、「雇用創出、地域経済の発展、若者の県外流出や人口減少をとめる」と理由付していますが、実際は大



鳥畑与一氏（静岡大学教授）資料より

フツーの人々〈1134〉

今週のフツーの人々（その297）

ひびかないコトバ

新型コロナの感染が3日連続で1万人を超える（31日）など広がる中、スガ首相は、東京と沖縄の期間延長と埼玉、千葉、神奈川、大阪を緊急事態宣言の対象に広げました。緊急事態とは緊急の対策を講じなければならない事態（広辞苑）ですが、スガ首相は相変わらず、「人流の抑制と飲食業の制限」を繰り返すばかりです。かつて「想定外」という言葉がしきりに使われたことが批判されたことがありました。国民には外出や外食の自粛を求める一方でオリンピックを強行し国民の不信感を増大させた上に「緊急事態宣言」を繰り返すスガ首相の危機感のない呼びかけに「ダメだ！こりゃ」と嘆いているのは私だけでしょうか?!ハムレットの「言葉、言葉、言葉」のセリフが耳の奥でグルグル回っています。

ひめだ高宏

きなりスクを伴っており地域経済の活性化に貢献しませんし、際限のない深みにはまる罠をまねきかねません。

クレアベストを選定

サンシティ撤退後の6月2日、和歌山県はクレアベストを事業者の候補にしました。同社は中堅企業向けの未公開株などの投資運営会社であり、IR・カジノ経営の実績がありません。先に述べたように地上型カジノの衰退傾向のなかでリターンが少ないと撤退する可能性もあると一部報道されています。同社は県の選定委員会の評価でも一千点満点中656点の低評価でした（合格ライン6百点）。資金調達・事業運営体制の評価を不十分としている事業所をなぜ選ぶのでしょうか。その後、共同事業体としてパルトーシュ社が参入を表明しました。同社は今年度第2四半期収益が71%減であり、長崎IRカジノへの参入に落選しています。

「これまで投入してきたので引くに引けない」

県幹部の発言ですへ報道されました）。これは県が大きな不安を感じつつ前に突っ込む姿勢をあらわしています。結果に責任を負えない計画を許すわけにはいきません。県知事・和歌山県の無責任さを象徴した発言ではないでしょうか。

コロナ禍で県民が苦しんでいる時に…。

市民生活、経済、自然、環境、まちづくり

カジノは「ギャンブルに負けた人の不幸によって成り立つ」ものです。負ける人、負けた額が多いほど収益が上がる賭博です。住民の福祉の増進を本旨とする自治体が関わるべきでない事業です。それを経済活性化の手段とする県に対して反対の声を広げていきましょう。和歌山市は2019年SDGs未来都市に選定されています。人にやさしく自然、歴史、文化の魅力をいかしたまちづくりを目指しています。IR・カジノはギャンブル依存を生みだし、持続可能な社会の構築とは逆の方向にすすむことになります。

特異な武将、荒木村重と官兵衛・信長

信長に謀反し、有岡城に黒田官兵衛を幽閉し、城や家臣を捨て、側室や家臣、女、子どもまで63人も信長に虐殺されながら自らは生き残った荒木村重という特異な武将と官兵衛、信長について米澤穂信著「黒牢城」と夢枕獏著「JAGAE」を続けて読みました。

次号予告とおしらせ

8月8日と15日の赤旗日曜版が合併号となるので、次号のひめだニュースは、8月22日、日曜版オリコミで、住民投票条例の学習会の続編となります。

こんにちは日本共産党です

今こそ検査の抜本拡大を

スガ首相は7月30日の緊急事態宣言拡大・延長の記者会見で、「8月下旬には2回の接種を終えた方の割合が全ての国民の4割を超えるよう取り組む」と強調しました。ワクチン接種は重要ですが、それだけでは現在の感染爆発を抑え込み、医療ひっ迫を解決することが難しいことは明らかです。ワクチン接種には短くてもまだ数カ月かかるうえ、ワクチン供給に停滞も起きています。

専門家は感染症対策の根本に立ち、①人の行動抑制などの感染経路対策、②検査による感染者の発見・保護などの感染源対策、③ワクチン接種による免疫獲得というこの3つの柱をバランスよく徹底することだと強調しています。

感染拡大を止めるには、市中の無症状感染者を発見、保護することが急がれます。